

親から子へ 人から人へ

茅野市のスケート文化

茅野市にはスケート授業や校庭リンクがあり、古くから地域にスケート文化が根付いています。そこには、スケートに携わる地域の方々の強い思いがあります。



チノシノイノチ



インタビューを通じて茅野市の魅力を紹介。
これまでに「御射鹿池」「八ヶ岳蕎麦切りの会」「
「読書の森 読りーむ in ちの」などを特集。
バックナンバーはこちらから。



「諏訪湖一周スケート大会」
明治41年（1908年）撮影。第1回諏訪湖一周スケート大会の様子。背後に中央線を走る汽車も見える。
出典：みんなでつくる下諏訪町デジタルアルバム（シロトリ写真館）



「下駄スケートをする子供たち」
大正14年（1925年）～昭和初期撮影。子どもたちにとって、スケートは身近な娯楽だった。どの家庭にも、スケート靴があった。
出典：みんなでつくる下諏訪町デジタルアルバム（下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館）



「下駄スケート」
カネヤマ式下駄スケート。明治39年（1906年）諏訪地方最初の下駄スケート。一足30銭（約3,000円）ほどで売り出された。外国製の靴スケートは、平均15円（今の約25万円）だった。
所蔵：下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館
出典：みんなでつくる下諏訪町デジタルアルバム（下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館）

高価であった靴スケートの代わりに、下駄に金属製のプレートを組み合わせた「下駄スケート」（通称「鉄こぶ」）が誕生しました。厚い鉄の塊のような刃が特徴です。

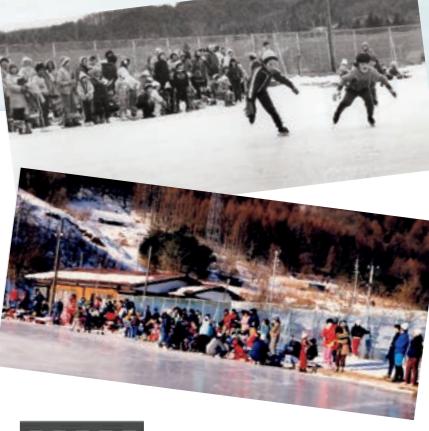
明治41年（1908年）頃には、諏訪湖で下駄スケートによるスケート大会が開催されています。安価な下駄スケートは、ほとんどの家庭に

手を目指す子どもたちやスケートを愛する人たちが集い、スケート文化の発展につながってほしいという願いが込められたこのリンクからは、小平奈緒さんをはじめ、世界で活躍する多くの選手を輩出しています。

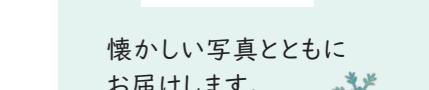
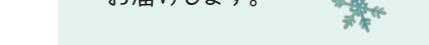
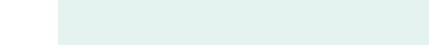
「小平奈緒さん（）のリンクとともに成長してきた思い出があります。」

1 気候を活かした天然リンク
茅野市をはじめとする諏訪地域は、日本海側に比べて積雪量が少なく、標高が高く湖が凍る時期が長いことから、スケートが盛んに行われてきました。明治36年（1903年）頃から田んぼや湖でのスケートが始まり、昭和になると、学校の校庭に水を張って凍らせる「校庭リンク」が作られるようになります。地域にスケート文化が根付いていきました。

2 スケート靴の進化
諏訪湖で下駄スケートによるスケート大会が開催されています。安価な下駄スケートは、ほとんどの家庭に



動画で配信中

懐かしい写真とともに
お届けします。懐かしい写真とともに
お届けします。懐かしい写真とともに
お届けします。懐かしい写真とともに
お届けします。懐かしい写真とともに
お届けします。懐かしい写真とともに
お届けします。

